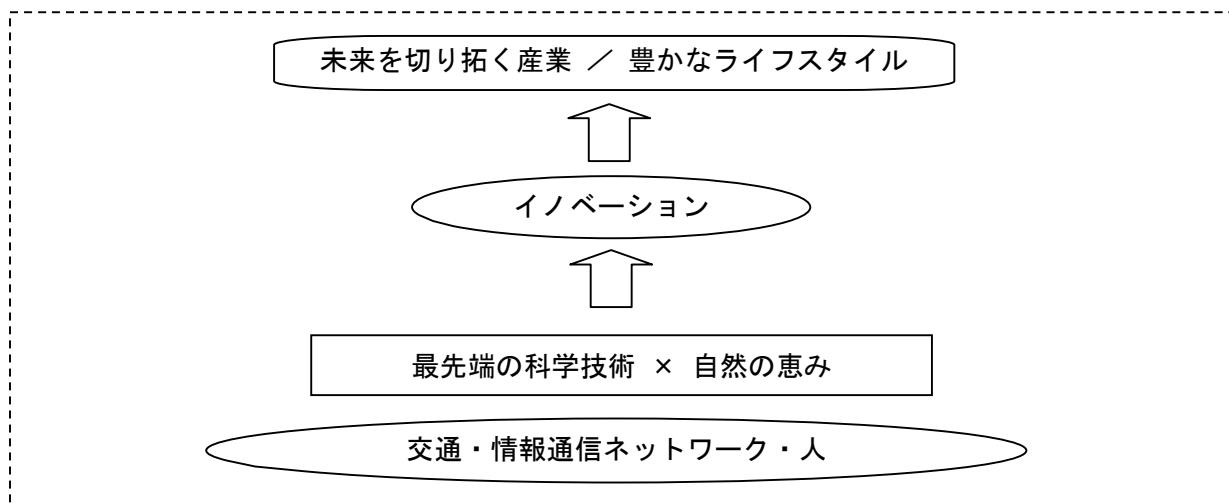


グランドデザイン（イメージ）

2050年頃の茨城のグランドデザインを、『充実した交通・情報通信ネットワークや人材を基盤に、本県の強みである最先端の科学技術と自然の恵みを活かし、未来を切り拓く産業と豊かなライフスタイルを生み出す「イノベーション大県いばらき」』として描き、日本の成長を支えるいばらきづくりを進めていきます。



グランドデザインイメージ図

○ 交通・情報通信ネットワーク

常磐自動車道をはじめとして、北関東自動車道、東関東自動車道水戸線、首都圏中央連絡自動車道からなる高規格幹線道路網が形成されるとともに、これらを補完する地域高規格道路や主要な幹線道路の整備が進み、広域的な交流と地域間の連携を支える道路ネットワークが構築されています。

つくばエクスプレスが東京駅まで延伸し、リニア中央新幹線とのアクセス性が高まることにより、筑波研究学園都市をはじめとする県南地域を中心に、本県と大阪・名古屋といった三大都市圏等とのネットワークが飛躍的に向上して、経済・学術・文化など様々な分野にわたる多様な交流がさらに活発になっています。

茨城港常陸那珂港区では、国内外の様々な地域との航路が充実するとともに港湾と直結する高規格幹線道路網により、県内各地域や北関東地域、さらには首都圏全体と結ばれることにより、中核国際港湾としての地位を確立しています。また、日立港区は、完成自動車の物流拠点や液化天然ガス（LNG）の供給基地として、大洗港区は、旅客船を中心とした賑わいのある拠点としてそれぞれ発展しています。鹿島港においては、鹿島臨海工業地帯の海上輸送や首都圏の東の玄関口として、高い国際競争力を有する物流拠点として発展しています。

茨城空港は、札幌や福岡をはじめ全国主要都市との路線が拡充し、日本全国を1日で行き来できる環境が整うとともに、アジア諸国をはじめ海外との路線も充実しています。また、道路や公共交通などによるアクセス向上により、県内はもとより北関東地域、さらには首都圏全体としての空のゲートウェイとして賑わいをみせています。

このように、それぞれの広域交通基盤が着実に整備されるとともに、併せて相互のコンネクティビティの向上や施設の長寿命化等が進められており、陸・海・空一体となった強靱で総合的な交通ネットワークが形成されています。

加えて、情報通信関係では、光ファイバー網やWi-Fiなどの整備による高速情報通信基盤やセンシング環境の充実等のICT化が飛躍的に進み、ビッグデータ・IoTなどの大容量情報を活用したイノベーションにより、効率化・高付加価値化等を実現した新しいビジネスが創出されています。また、ICT化は、テレワークや在宅勤務などによる時間や場所にとらわれない柔軟な働き方や、遠隔治療などの医療体制の充実をはじめとする県民の安心な暮らしを支えています。

○活力を生み出す科学技術・産業の集積

最先端の科学技術が集積するつくば地区では、研究機関等の集積や機能強化がさらに進むとともに、研究者や技術者など人のネットワークが構築・拡大され、科学技術を活かしたイノベーションを絶え間なく生み出す産業拠点が形成されています。

また、人工知能（AI）、ロボット技術、コンテンツ、次世代自動車など、新たな成長産業が創出されています。

ものづくり産業が集積する日立地区では、優れたものづくり技術や人材の集積に加え、つくば・東海地区の最先端科学技術などを活かし、グローバルニッチトップ企業の育成や中小企業の海外展開が進行する産業拠点が形成されています。

素材産業が集積する鹿島地区では、企業間連携の強化や企業が活動しやすい事業環境の整備、新たな産業の集積により、競争力の高い産業拠点が形成されています。

首都圏の主要都市を連結する首都圏中央連絡自動車道の沿線地域では、首都圏の物流再編、成田国際空港、筑波研究学園都市の機能などを活かした工場や物流拠点等の立地や大規模商業交流施設が進出し、広域観光レクリエーションの取組も行われるなど、地域の資源を活かした産業・文化交流軸として、多面的な活用が展開されています。

北関東三県の主要都市を結び茨城港常陸那珂港区と直結する北関東自動車道の沿線地域には、東京港湾内諸港の機能分担と首都圏物流の円滑化が図られ、物流企業などが立地するとともに、常陸那珂港区を含むひたちなか地区では建設機械をはじめ港湾利用型の産業集積が進んでいます。

鹿島港や茨城港、茨城空港など国際的な交流拠点を結ぶ東関東自動車道水戸線の沿線地域では、常磐道、北関東道、圏央道と一体となり広域的な連携軸が形成されるとともに成田空港とのアクセスも向上し国際競争力が強化され、地域間の連携と交流が促進されるとともに、新たな産業の集積が進んでいます。

○利便性が高く潤いのあるまちづくり

福祉・医療・商業などの生活に必要な都市機能の集約と公共交通を軸とした地域間の連携が進み、質の高いサービスが効率的に提供されるまちが実現しています。また、歴史や文化、自然環境等の地域特性を活かした良好な景観と、歩道のバリアフリー化など人にやさしい生活空間が形成され、潤いのある都市環境が創出されています。

さらには、洗練された機能性と居心地の良さを兼ね備えた茨城発の二十一世紀型ライフスタイルが提唱されています。

○交流と連携による魅力ある地域づくり

交通・情報通信ネットワークを最大限活用し、県内外との、人・もの・情報の活発な交流が行われています。こうした中、県内各地において、特色ある資源を有する地域どうしが、広域的に連携することにより、それぞれの地域の持つ資源や魅力が相互に共有され、活力ある産業や多彩な文化などが創出されています。

農山漁村地域では、排水や道路などの基盤施設が整備され、豊かで住みよい環境が確保されるとともに、自然や伝統文化などが保全されています。

また、生活圏においても、都市と農山漁村をはじめ、地域間の連携が進み、社会資本の効率的な活用や、地域資源の有効利用が行われており、創造的な相互補完関係が構築されています。

○地域と世界の未来を拓く人材の育成

自分の生き方や進路を主体的に考える力が育まれるとともに、その実現に必要な技能等を習得できる環境が整っています。また、グローバルな視野を持ちながら、郷土をこよなく愛し、ローカルに活躍する人材が育成されるとともに、産業・文化・学術などの様々な分野をリードする多くのスペシャリストが排出され、本県の発展を牽引しています。

本県では、本県の資源を活かしたイノベーションにより、未来を切り拓く産業が育ち、豊かなライフスタイルが確立し、日本や世界の発展に貢献する「人が輝く元気で住みよいいばらき」が実現しています。